

(様式1)

校種	小・ 中 どちらかに○	学校番号	22	学校名	宇都宮市立上河内中学校
----	-----------------------	------	----	-----	-------------

令和7年度 学校経営計画

1 教育目標

(1) 基本目標

人間尊重の理念を基調とし、豊かな情操を備え、社会の変化に向き合いながら、常に目標を持ち、自ら学ぶ意欲を持ち続け、他と協働して粘り強く物事に取り組む心身ともに健康な生徒を育成する。

(2) 具体目標（具体的な児童生徒像など）

校是

よく学びよく鍛えよ

☆ めざす生徒像

- ・ 学び鍛える生徒
- ・ 自他を尊ぶ生徒
- ・ 気力あふれる生徒

☆ めざす教師像

- ・ 愛と情熱にあふれる教師
- ・ 研きあう教師
- ・ 実践する教師

☆ めざす学校像

- ・ 楽しく学びあえる学校
- ・ 協に伸びる学校
- ・ 信頼される学校

2 学校経営の理念

(1) 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を進めながら、生徒が生涯にわたって成長し続けるための基盤となる、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成に努める。

(2) 全教職員が、強い使命感と情熱をもって学校経営に参画し、学校教育目標の達成に向けて取り組むことで、生徒・保護者・地域の信頼や期待に応え、「地域とともにある学校づくり」に努める。

3 学校経営の方針

(1) 「確かな学力」を育むことをめざして

- ① 学力調査等を活用した現状分析と改善策の検討並びに実践
- ② 習熟度別学習等による生徒の実状に即した指導・支援の推進
- ③ 家庭学習の習慣化に向けた指導・支援の強化
- ④ 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進
- ⑤ デジタル機器の効果的な活用（1人1台端末、AIドリル等）

(2) 「豊かな心」を育むことをめざして

- ① 道徳科の指導を中核とした道徳教育（宮っ子心の教育）の充実
- ② 体験・ボランティア活動や読書活動等を通じた豊かな心や創造性の涵養
- ③ 委員会活動や学校行事を通じた自己有用感や自己肯定感の涵養

(3) 「健やかな体」を育むこと（健康で安全な生活と豊かなスポーツライフの実現）をめざして

- ① 健康診断や新体力テスト等による現状把握・改善と体育に関する指導の充実に向けた取組の推進
- ② 学校栄養職員や養護教諭の参画を通じた食育や保健指導の更なる充実と推進
- ③ 安心・安全な教育環境の整備に努めるとともに、交通安全教室や避難（防災）訓練等を通じた安全に関する指導の充実
- ④ 進んで運動に取り組む環境づくりの推進と性・薬物等に関する指導の充実（心身の健康の保持増進）

- (4) 「教職員の資質・能力」と「学校のチーム力」の向上をめざして
- ① OJT・研修等を通じた教師の授業力向上に向けた取組の継続
 - ② 情報共有の推進と共通理解・同一歩調による指導の充実
 - ③ 校務のデジタル化等を通じた業務の効率化及び適正な在校等時間を意識した「働き方改革」の推進（時間外在校等時間の削減）
- (5) 「未来を生き抜く力」を養うことをめざして
- ① 1人1台端末の活用を通じた情報活用能力の定着とデジタル・シティズンシップ教育の推進（情報化・グローバル化社会への対応）
 - ② 宇都宮学の学習を通じた地域への愛情と誇りをもてるような指導の充実
 - ③ 地域の教育資源の活用と生徒の地域行事への積極的参加の推進
 - ④ ALTの授業参画を通じた英語を使ったコミュニケーション力の育成及び異文化理解・尊重の推進
- (6) 小中一貫教育と地域学校園の取組の充実をめざして
- ① 地域学校園で作成した小中一貫教育カリキュラムの確実な実践
 - ② 発達の段階に応じた学業指導の充実
 - ③ 地域学校園内の児童生徒交流及び教職員間の情報交換等の充実

[上河内地域学校園教育ビジョン]

かしこく、たくましいゆずっ子の育成

～基本を身に付け、人とつながり、夢に向かって生きる子どもを育てよう～

4 教育課程編成の方針

(1) 基本方針

教育基本法・学校教育法等の法令及び学習指導要領に基づき、上河内特有の地域性や生徒、学校の実態等を考慮し、生徒の心身の発達段階に応じた編成を行う。

(2) 留意点

- ① 学校の教育目標や「めざす生徒像」、各教科の目標・ねらいとの整合性を図る。
- ② 学習指導要領で示されている各教科等の授業時数を確保する。
- ③ 「総合的な学習の時間」において、教科等横断的な視点に立った追究活動の推進や発表をめざした学習を進める。
- ④ 学校評価との関連付けを図り、PDCAサイクルを機能させたカリキュラムマネジメントを行う。
- ⑤ 地域協議会等との連携を図るとともに「社会に開かれた教育課程」の実現をめざす。

5 今年度の重点目標（「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○）

(1) 学校運営

- ① 生徒一人一人を尊重する、特別支援教育の視点を生かした個に応じた支援の充実
 - ・いじめ根絶に向けたアンケート実施（早期発見）と早期対応
 - ・ステップルームの利用促進による不登校生徒への適切な支援
- ② 教職員相互の融和・協働による組織の活性化及び教職員の負担軽減
 - ・業務内容の精選・効率化の促進等による、在校等時間の適正化及び時間外在校等時間の削減
 - ・業務改善の意識高揚及び「語り場」の導入
 - ・リフレッシュデー等の効果的な促進
- ③ 「地域とともにある学校」づくりをめざし、地域と連携・協働した取組の充実・推進
 - ・部活動指導（休日）の地域移行に向けた協議会設置検討会議の実施
 - ・生徒の、地域行事等への積極的な参加及び参画の促進

(2) 学習指導

- ① 確かな学力を身に付けさせるための授業展開や学習活動の工夫
 - ・一人一台端末の効果的な利活用
- ② 家庭学習の習慣化とその充実に向けた指導・支援の強化
 - ・eライブラリーを利用した家庭学習の確立

○③ 「学びに向かう集団」づくりの推進

- ・地域学校園としての学習ルール指導を中心とした学業指導

(3) 児童生徒指導

- ① 基本的な生活習慣を身に付け、高い規範意識に基づき行動する生徒の育成
 - ・生徒会活動（話し合い）を通じた自主的・自発的活動の意図的な設定

② 組織的な対応による、一人ひとりに寄り添った支援の充実

- ・生徒指導係会や教育相談係会・特別支援教育部会における情報共有と対策等の検討

○③ 「宮っ子心の教育」の推進

- ・体験活動・読書活動、及び道徳科の授業の充実

(4) 健康（体力・保健・食・安全）

① 給食や食農体験等の充実による地域の特色を生かした食育指導の推進

- ・お弁当の日、地域食材を生かした給食メニュー設定（行事食・地産地消等）
- ・小中で連携した指導（食事マナー・衛生等）

○② 検診結果を踏まえた地域学校園として連携した保健指導の充実

- ・視力改善（維持）に向けた指導（デジタル機器による影響への対策等）

○③ 地域学校園の小中一貫カリキュラムを踏まえた運動生活の習慣化

- ・保健体育科、部活動等における基礎体力の向上を目指した取組

6 学習指導、児童生徒指導、健康（体力・保健・食・安全）に関する取組

※ 様式2～4参照

7 特色ある学校づくり等に関する取組

(1) 育てたい資質・能力

- ①基礎・基本を習得し、人とつながり、自らの考えを伝え・表現する力
- ②自らの可能性を信じ、自己実現に向かって粘り強く取り組む「たくましさ」
- ③豊かな感受性を備え、他を思いやる心
- ④主体的に活動に取り組む気力とそれを支える体力
- ⑤地域の一員としての自覚と地域への関心・愛情を持ち、地域に貢献しようとする意欲

(2) 具体的取組（提案型予算「頑張る学校プロジェクト」に関する取組には文頭に◇）

- ①習熟度別学習等による個別指導（基礎学力の向上）
- ◇②授業における協働活動（グループ活動）の推進
- ③「総合的な学習の時間」成果発表会や短学活におけるスピーチの実施
- ◇④自己有用感・自己肯定感を実感させる学校行事・学級活動等の実施
- ⑤豊かな心の育成をめざした道徳の授業の充実や読書活動の推進
- ◇⑥校内の美化や施設整備も含めた学習環境の整備
- ◇⑦文化祭や3年生を送る会などの行事や委員会活動等の生徒会活動の活性化
- ⑧地域人材の活用及び地域行事への生徒の積極的参加の奨励

8 本市の重点施策・事業との関連

(1) 地域とともにある学校づくり（「魅力ある学校づくり地域協議会」との連携・協働を含む）

①基本的考え

上河内地域の伝統や歴史を重んじ、他地域とは異なる特性を尊重しながら、地域を愛し、将来、地域を担っていくような生徒の育成をめざす。

②主な取組

- ア 関白獅子舞や梵天祭などの地域の伝統的行事への積極的な参加と報告会等の実施
- イ 「ふれあい祭り」・「福祉イベント」・「地区体育祭」などの地域行事への生徒の参加及びボランティアとしての協力
- ウ 「学校だより」の発行と地域への配付，ホームページの活用等による積極的な情報発信

(2) 小中一貫教育・地域学校園

①基本的考え

小学校における小規模（単学級や2学級）な集団での生活経験のため，人間関係を構築したり，多様な集団の中で表現したりする力が不足している生徒が見られる。小中連携・小小連携を通して，児童生徒の学力，体力，人間力の向上を図る。

また，各種学習状況調査等の現状の改善のために，学力向上に向けた取組を強化する。

②主な取組

- ア 小中一貫カリキュラム（平成30年度作成）の着実な実施と改善点の検討
- イ 地域学校園としての「学習ルールの徹底」による「学びに向かう集団づくり」の推進
- ウ 学校行事等における小中学生の交流活動の推進

(3) 不登校対策

①基本的考え

日ごろから，「居心地のよい学級・学校」，「居がいのある学級・学級」づくりをめざし，学級等の人間関係の把握に努め，交友関係に起因するトラブルを未然に防止する。

また，生徒の不安や悩みの解消のため，教育相談機会を設定したり，多角的な支援を充実させたりする。（特別支援教育の視点を重視する）

②主な取組

- ア 生徒が自己有用感や自己肯定感を持てるような「認める指導・支援」の推進
- イ 「Q-U検査」や学校独自の「嫌なことアンケート」の実施と結果の有効活用
- ウ 教育相談の充実と情報共有の推進
- エ スクールカウンセラーやメンタルサポーター，関係機関との連携と活用

(4) G I G A スクール構想

①基本的な考え

グローバル・高度情報化社会に適応するために，情報活用能力の育成を目指し，学習の基礎となる資質・能力を高めるための手段として，授業における積極的なICTの活用に努める。

②主な取組

- ア 日常文具の1つとしての1人1台端末の効果的な活用
- イ 授業等における学習ソフトの利用
- ウ デジタルシティズンシップ教育の推進

(5) 宇都宮学

①基本的な考え

グローバル社会に主体的に向き合い，よりよい社会を創る担い手となるとともに，異なる文化を持つ人々とともにたくましく未来を生き抜く宮っ子を育むため，生徒が郷土宇都宮の歴史や伝統文化，産業などについて理解し，郷土への愛情と誇りを持てるようにする。

②主な取組

- ア 宇都宮のよさや歴史について学び，親しむことができる機会の設定
- イ 宇都宮の特色や魅力を理解し，郷土の未来について考える機会の設定
- ウ 宮っ子の誇りを持ち，未来を切り拓いていこうとする実践的態度を養う機会の設定